

地域とヒューマニズム 地域における子育て支援 — 政策と実態からの検討 —

佐々 加代子

子育て支援策は国、地方自治体の取り組みとそれぞれの地域での活動の実態から見出される。政策と実態について、子育て支援策の一つとしてのファミリー・サポート・センター事業を所沢市で、子育て広場活動は小平市内の民の活動「子育て広場きらら」から、NPO 法人の活動としては清瀬市内における「子育てネットワーク・ピッコロ」などから検討した。いずれも筆者がかかわってきた地域の子育て支援活動である。

地域のそれぞれの子育て支援活動の経緯を検討すると、その地域の自治体との協働関係のありようが浮かびあがってきた。所沢市のファミリー・サポート・センターは、かつては直轄であった。その後業務委託で社会福祉協議会になった。しかし、アドバイザーが同一人物であったことで業務内容の移行と行政との連絡においても有利に働いた。変化した許認可体制などの乗り越え方については、そのアドバイザーが市の行政に熟知していたことも関与した。民の活動においては、地方行政との壁にぶつかることが多い。小平市内「子育て広場きらら」などは、その活動は一民間団体の動きとしてしかとらえられてはいない。

活動の経緯のなかで次第に質を高めて幅を広げ、小平地域に根ざしていった過程は、子育て渦中にある保護者からの絶大な支持からであったということがなかなか行政側に受けとめられないでいる。行政側が管轄している保育園などでの広場事業の

利用者数が少ないことで、「地域に子育て支援そのものの要望が少ない」という捉え方をしている実情である。清瀬市の子育てネットワーク・ピッコロについて行政は、「行政ができないことを民が行っている、いわばありがたい子育て支援活動として受けとめ」てはいるが、財政面で課題を抱えていることで、協働の活動においても連動してきている。

しかしながら、それぞれの地域で実質的に活動が広がりその質を高めている。その背景には、それぞれの活動を担っている人たちが、それぞれの地域を知り尽くしていることと、子育て支援における確固たる理念をもって取り組んでいるということである。それが活動の核になって、地域に根ざしていく過程を創ってきたということではないかと考えた。子育て支援が地域に根ざすということには欠かせない要素であると考えられた。

地域における子育て支援の課題としては、行政と民を含めた地域活動と施策への展開、ニーズ対応と協働のありかたなどがあげられよう。さらに、根ざす活動の核になった人の理念の研究にある。なお研究成果の一部として、「みんなで育て合う地域の子育て支援の実態と課題」犀書房を7月に刊行した。実践内容については核になった人に執筆していただき、筆者が編集者で共著になっている。